

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 石岡市立関川小学校 】

1 実践テーマ	I ・ III ・ V
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	全校児童33名 (1年6名、2年6名、3年5名、4年7名、5年3名、6年6名) 全教職員
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(国語・総合的な学習の時間・学級活動) ② 行事名(オリ・パラ講演会) ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目 標 (ねらい)	・実際にパラリンピアンとその監督の話を聞いたり、パラリンピアンについての本を読んだりすることを通して、スポーツを通じたインクルーシブ教育(共生社会)の構築を目指す。 ・パラスポーツを体験することで、その特性や困難さ、おもしろさを実感させ、それらに対する親しみや応援する心を涵養する。
5 取組内容	(1) 事前学習 パラリンピックのことを知ろう(3年生から全校児童へ) ① 3年生が国語の授業でパラリンピックのリーフレットを作る。 ② 作ったリーフレットを昇降口に展示する。  (2) オリ・パラ講演会(全校児童対象) ① 実施日 令和2年11月20日(金) ② 講師 日本体育大学 兎澤 朋美 選手(走り幅跳び日本代表) // 水野 洋子 監督 ③ 講演内容 ・これまでの人生(競技、監督との出会い) ・パラリンピックに向けて(選手・監督の2人3脚) ・義足について ・児童に伝えたいこと(選手の努力と監督の支え、共存社会)



【パワーポイントを使って、選手・監督それぞれの立場からの2人での講演】



【義足を付け替える様子】【監督の解説による義足を付けての2人での実演】

(3) オリンピック・パラリンピック関連図書コーナーの設置

○図書室の廊下にオリンピック・パラリンピックへの児童の関心を高めるためのコーナーを設置した。調べ学習用だけでなく、パラアスリート本人や周りで支えている人たちが書いた本も多く設置した。



(4) パラスポーツを体験しよう(4、5年 総合 福祉)

- ① 実施日 令和3年1月27日(水) 3校時
- ② 内容
 - ア ボッチャを体験する
 - イ ゴールボールを体験する



【ゴールボールの様子】

6 主な成果

- ・ 兎澤選手と水野監督の優しい雰囲気ややりとりから信頼感が感じられる講演会であった。小学校の時に病気になり、運動したいから「足を切断する」と決めたこと、はじめは100mを2本走るのも精一杯だったけど、「あきらめないで走る」と決めたら10本走れたことなどを話してくれた。最初に義足の姿を見たときは、ただ驚いていた児童たちだったが、話を聞

	くうちに、走るために足を切断することを小学生で決めた強さやあきらめないで努力を続けていることの素晴らしさを感じるようになった。感想にも「自分も勉強をがんばりたい。」「大人になってつらいことがあったら兎澤選手の言葉を思い出してがんばりたい。」「できなくてもあきらめないで挑戦すればできることを学んだ。」など、兎澤選手の言葉に力をもらい、自分もがんばろうとする気持ちをもつことができた。水野監督の話からは、パラアスリートが活躍する裏には、水野監督の精神的な支えとともに、練習環境の整備（設備や用具等）や大会参加のための支援といった大きな支えがあつてのことであることを知り、共に生きていくことの大切さを学ぶことができた。 ・オリンピック・パラリンピック関連図書コーナーを作ったことで、関心をもって、本を手にとる児童が増えた。6年生の児童は、パラアスリート本人の本を読み、「障害があっても、それをマイナスでなくプラスに考えていることがすごいと思った。」という感想を伝えてくれた。 ・ゴールボールとボッチャを体験することを通して、パラスポーツに関心を持ち、テレビやインターネットなどで情報を得ようとする児童が出てきた。 ・普段触れることができない方々と接する機会を得られたことにより、積極的に質問する児童が多く見られるなど、いろいろなことに興味をもつ児童が増えた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	・昨年度のオリ・パラ講演会として来ていただいたゴールボールの山口凌河選手の新聞記事を昇降口や各学級に掲示し、パラリンピックへの児童の関心が高まるよう工夫した。 ・3年生の国語の教科書に、新しく「パラリンピックについて」の内容が記載されたので、授業で作ったパラリンピックのリーフレットを昇降口におき、全校児童に伝える活動を通して、パラリンピックへの関心を高めた。 ・講演会に来てくれる兎澤朋美選手についての資料を各学級に配付し、義足やパラ陸上への関心を高めた。 ・オリンピック・パラリンピック関連図書コーナーを設置し、パラアスリート本人や周りで支えている人の思いを知る機会を作り、アスリートの挑戦し続ける強さや誰かを支える素晴らしさを感じる機会とした。 ・パラリンピックでしかない種目であるボッチャやゴールボールを体験する機会を作り、パラスポーツへの関心も高める工夫をした。
8 主な課題等	・講師の選定、連絡、日程調節等、難しかった。 ・コロナ禍だったので、講師の先生とのふれあいや保護者や地域の方の招待ができなかった。
9 来年度以降の実施予定	・来年度は東京オリンピック・パラリンピックが開催予定なので、兎澤選手や昨年度来てくれた山口選手との交流を続け、応援していきたい。